



# 森の中の高知駅



高知を愛する皆様へ (29年8月号)

平成29年8月1日

梅雨が明けて子供たちは夏休み。今月は緑のボランティアの共同活動もお休みです。ただ、夏場の水遣りは絶やせないなので、侠気あるご有志に交代で奉仕をお願いしております。皆様のご協力に頭が下がります。

9月の共同活動は17日(日)、10月は15日(日)の予定です。

## 7月のトピックス

○7月16日(日) —

高知駅南口電停西側「みんなの庭」の草取り。元気な大学生を含めて5人体制だったので楽勝といきたかったのですが、雑草軍の勢いも盛んで僅かに時間切れ。作業後は駅構内のお店で老若混じえての楽しいランチ会が恒例となっています。なお、残りは週明けに再出勤してくださった勇士たちの手でキレイに片付けました。(写真1)

午後は帯屋町でライブとチラシ配り。足を停めて歌を聴いて下さる方、チラシを読んで励まして下さる方、ささやかな対話・交流の場面でした。

○7月13日(木)

草ぼうぼうだった南口電停東側の空地がお花畑に変身しました。予算をねん出した高知市の方々、半分奉仕でご協力くださった前川種苗さんに感謝です。駅前電停周りの眺めが格段に良くなりました。(写真2、3) 秋にはシンボル・ツリーを植樹する計画だそうです。

一歩一歩少しずつですが景観が変わって行きます。



写真1. 作業風景(16日)  
(南口電停西側みんなの庭)



写真2. 雑草を除いた更地  
(南口電停東側)



写真3. 花植え後(13日)  
(同左)

駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え(花苗持ち寄り、勤労奉仕、ご寄付など)をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥ 幹事連絡先：〒780-0042 高知市洞ヶ島町1-11

中田昌志 携帯電話：090-8849-3651 E-mail：[m.nakata@ak.wakwak.com](mailto:m.nakata@ak.wakwak.com)

公文敏雄 携帯電話：090-7016-3743 E-mail：[kumont2@yahoo.co.jp](mailto:kumont2@yahoo.co.jp)

ホームページ：<http://mori-kochi-ekijimdo.com/>

取引銀行：四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 代表中田昌志」名義 普通 0709695



## 「緑のまちづくり」を考える

### (13) 「逆開発」でアスファルトの駅前を森に戻すー千葉小湊鉄道の勇断

(写真は人気のトロッキ列車 小湊鉄道HPより)



「森の中の養老溪谷駅」を目指す千葉県小湊鉄道の「逆開発」事業が、たいへん珍しいとしてメディアに大きく取り上げられました(6月1日付日経ビジネス ONLINE、2月28日付朝日新聞、2月23日付日経新聞など)。駅前のロータリーや駐車場のアスファルトを順次剥がして地元の木を植え、今年から10年以上かけて自然の森を再生するというもので、「駅を出たら森や林の中というイメージ」だそうです。



まずアスファルト剥がしから  
(日経ビジネス ONLINE)



木を植える鉄道マン  
(同左)



完成予想イメージ  
(朝日新聞より)

着工から数カ月、駅前の風景が一変しました。木々が茂り始め、人々が集まって、線路の枕木で作ったベンチでくつろぎます。今後は地元の人々が使える産直スペースやにぎわいの場も設け、地域活性化の拠点としたい考えです(下の写真 日経ビジネス ONLINE より)。



小湊鉄道は千葉市からほど近い市原市街を起点に山間部に延びるローカル線です。田園や里山がひろがる沿線のなかでも、養老溪谷駅は近隣の観光資源(春秋の溪谷美と温泉)で人気が高く、開発が進んで駅前には旅館・飲食店・土産物屋などが立ち並び、道路も舗装されて賑わいました。しかし、高度成長が終わると、人影がめっきり減って店舗や旅館の廃業が相次ぎ、乗降客数もほぼ半減、アスファルトとコンクリートの殺伐とした風景が残りました。「利便性ばかりを追求した開発が、土地の持っていた魅力を蔽い隠してしまった」という反省(石川社長)に立っての「逆開発」発想なのです。小さな私鉄の復活再生策を、地元市原市は地方創生交付金(初年度事業費2100万円のうち1500万円)を充てて応援しています。

「経済効果」を呪文のように唱えて、新幹線、高速道路、諸施設をひたすら「建設」してきた日本。実は、巨費を投じて自然と歴史民俗遺産を「破壊」し続けてきたかもしれません。

高知で新堀川環境保全か道路建設かの議論が蒸し返されている折から、国交省と東京都は由緒あるお江戸日本橋の空を覆う高速道路を取り壊して地下化する決断を発表しました。